



年頭にあたって

光陽の里 楽農会 野田芳広



平成24年1月16日、1ヶ月ぶりの雨でカラカラになった畑もこれで生きかえるなと思つて起きた朝、一面の銀世界で畑も廻りも真っ白になっていた。早速愛犬といっしょにひさしぶりにサクサクと雪を踏みしめる快感を味わいました。光陽の里にうつつて以来こうして雪を踏みしめて歩くような降雪ははじめてのような気がします。真っ白な雪が全てを洗い清めて新しい年が迎えられたように思います。

今朝の読売新聞の論点という欄で、京都大学の松井三郎氏が、環境保全農業として有機農業の必要性を論じていました。昨今こうしたことがマスコミにもとり上げられる時代になってきたことを痛感しました。光陽の里も益々必要性を増す時代になって来たということでしょうか。1月の楽農会の世話役会で平成24年の年間行事をまとめました。年3回の「共有地の草刈」、

学園花の村機関紙第6号

2012年2月3日(金)

編集兼発行人 伊藤公博

TEL・FAX

(042) 636-8291

〒#

mitoh@alto.ocn.ne.jp

8月5日(日)の「野菜を食べる会」、10月28日(日)の収穫祭を例年通りやってゆきたいと思っております。今年ではできるだけ多くの耕作者の皆さんが参加していただけるように工夫したいと思えます。

毎年会員から会費をいただいで楽農会の運営をしておりますが、多少会計もプラスになって来ました。特に今年には学園花の村からいただいた寄付金を含めて、春に種のクーポン券を会員に配布することになりました。次年からも何らかの形に会費の還元ができればと思っております。

寒さが終わると一気に春になります。今のは春作の準備をしつつ今年も一年頑張ってくださいませよう。

今年の抱負

倉馬の里 柴桂子



倉馬の里は今年も穏やかな新年を迎えることができました。寒い季節、東北の被災者の方々の不自由な生活を思うと胸が痛みます。1日も早く故郷での穏やかな生活ができる日が来るこ

とを願ってやみません。

歴史を少しばかり勉強している私は、歴史学の中でも政治史や経済史の研究が優先され文化史が置き去りにされがちなことを不満に思っていました。現社会もその傾向が強いと思います。

便利さや効率の良さや物質的豊かさが少くらい減少しても、心の豊かさはさほど失われることはないでしょう。自然や文化や人々との交流で、心の豊かさはいくらかでも増すことができます。

倉馬の里は今年、「里山を楽しむ会」(仮称)を正式に発足します。自然の営みと素晴らしいロケーションに恵まれ、心の広い地主さんとの出会いを少人数で楽しむのはもったいなく思えます。都会の方々も含め、できる限り多くの方々に倉馬の里を楽しんでいただきたいと思えます。日の出と日没に感謝し、自然の力を借りて植物を育て成長を喜び、季節の草木や鳥の声を楽しみ、満天の星を仰ぎ、集い来る人々との語りを楽しみたいと思えます。

昨年は様々な活動をなさっている各地の方々の交流も深めました。今年もそうした広がりを通し、様々なことを学び、生きていることの喜びや感動を味わいたいと思えます。

みなさんのご協力を得て、倉馬の里が、倉馬で、掛川市で、静岡県で、誇れるような里山になるよう務めたいと思えます。